

学びを活かして地域に貢献



6月30日(月)と7月3日(木)に大垣養老高等学校 環境科学科 2年生の生徒により、宮の森公園の樹木剪定が行われました。この活動は総合実習の授業として行われ、これまでに授業で学んだことを活かした環境美化活動の実践により、地域に貢献したいという生徒たちの思いから実現しました。

実習に参加した小野寺礼恩さんは「地域の人たちに宮の森公園を気持ちよく利用してもらうことができるよう、きれいにしたいという思いを持ち、みんなで協力して作業できました。自分たちが学んできたことを活かして、地域に貢献することができて嬉しいです。今後も生まれた町への恩返しとして、清掃活動などへ参加していきたいです」と話しました。

このまちがもっと楽しくなるマルシェ



6月28日(土)に養老町テレワーク施設YOROfficeと46COCOマルシェ実行委員会(子育てシェアCOCO)の共催により、46COCOマルシェ～森のふえすていばる～が開催されました。

このイベントは、同実行委員会が実施する「養老町でハッピー46子育て事業～ふれあう、つながる、この町がもっと楽しくなる～」の一環として開催され、養老町の豊かな自然と充実したコミュニティスペースを活用し、世代を超えた地域交流の場となることを目指しています。来場者は、物販や体験型ワークショップ、キッチンカーによる出店、ステージパフォーマンスなどを楽しみながら交流を深め、子どもから高齢者まで誰もが笑顔になる素敵なイベントとなりました。

名医 北尾春圃の偉業をたたえる



6月22日(日)に福源寺(室原)において、養老町北尾春圃顕彰会の主催で北尾春圃顕彰法要が行われました。北尾春圃は室原に生まれ、江戸時代の名医として知られた人物です。その腕前は診察待ちの人々で門前に市場ができるほどであったといわれ、朝鮮通信使との会談の中で、朝鮮の医師である奇斗文^{きとうぶん}から「東海に天民あり」と絶賛されたという逸話が残っているほどです。また、学者でもあり、著書も多く、11種に及ぶ書物を出版しました。

北尾春圃の偉業をたたえとともに冥福を祈るため、福源寺の本堂内において、田中頼彦会長からの追悼の詞、参加者一同による読経や焼香があった後、墓前で手を合わせました。

命を守る「シートベルト」と「チャイルドシート」



7月1日(火)に日本自動車連盟(JAF)岐阜支部と県、養老警察署が共催し、養老こども園の5歳児と保護者を対象として、乗車時にシートベルトやチャイルドシートを着用することの大切さを学ぶ会を実施しました。参加者は、交通安全の講話や衝突実験DVDを視聴した後、シートベルトコンビンサー(衝突体験車両)に乗車して時速5キロでぶつかった際の衝撃を体験し、ジュニアシートとチャイルドシートの正しい取り付け方についての講習を受けました。保護者は「たった5キロでもすごい衝撃だったので、自分の車ではもちろん、友人などの車に乗るときもジュニアシートやシートベルトは必ずさせないといけないと身をもって感じました」と話しました。